

平成 23 年度 推薦入試試験問題（生活科学科 生活科学専攻）解答例

課 題 (100 点)

【解答のポイント】

- ・ 便利な生活の問題点や環境と調和・共生した生活の具体例を挙げていること。
- ・ 便利な生活と、環境と調和・共生した生活の関係を述べていること。
- ・ 解答全体の論理に一貫性があること。

【解答例】

快適で便利な電化製品や自動車の使用は多くの電気や燃料を消費します。自動車の排気ガスは都市の大気汚染の原因の一つです。プラスチック製品は生活のいたるところで使われていますが、プラスチックごみが大量に発生し、焼却すれば大気汚染の原因となります。見栄えが良く規格のそろった農産物の収穫量を増やすために化学肥料や農薬を大量に用いると、土壌や水、大気を汚染することになります。便利で快適な生活の一方で、埋め立てや開発により美しい自然は失われ、大規模な地下資源の採掘や木材資源の伐採は自然環境を大きく変化させています。

このような中で、自然と調和し共生する生活が求められています。豊かで快適な生活を求めすぎるために大量に発生するごみについては、ごみの減量や回収・再資源化が必要です。環境を守るために、例えば食生活では、食べ残しを出さないようにし、旬の農産物を選んで購入することや地産地消で輸送や生産のエネルギー消費を抑えることができます。これからは、消費が生活環境に及ぼす影響を考えて行動することが大切だと思います。太陽熱の利用や太陽光発電、風力発電なども盛んに行われるようになりました。住生活では、夏を涼しく健康で快適に過ごすために、エアコンだけに頼らず、打ち水で温度を下げたり、ブラインドやすだれ、葉の茂った植物で窓辺を覆うなどにより、日ざしの調節や室温を下げるができます。生活排水の環境への負担を減らすために、食器洗いや洗濯時に洗剤を必要以上に使わないことなどは、すぐに実践できることです。家庭の生ごみを肥料に変えて植物を育てたり、森林浴など自然に親しむことも大切です。移動には公共交通機関を利用し、近くへは車の使用を控えて歩いたり自転車を使ったりして、健康で快適な生活を心がけたいと思います。

(779 字)